

◆岩田先生へのメールより

[私たちの課題]

・新型コロナの中で求められていること
新型コロナに関する情報が過多の中、この感染症の本質が分からずにお寺の活動が停滞しています。

宗教者は本来このようなときこそ力を発揮せねばと分かっているのですが、高齢者との触れ合いも多く、伝統的に守ってきた活動形態が、お寺に集まってみんなで声を出してお勤めし、法話を聞く形であったため、新型コロナの前で全国的に法要のあり方に困惑しています。

声をどの程度出しているのか、法話を聞くことは問題がないのかといった具体的な疑問から、今日本の社会でどのような変化が起こり、何が不安定化し、何が求められ、そしてこれからどのような方向へ向かっていくのか、といったことまで、分からないことが多すぎます。

この無知に対して、ぜひとも指針をご教示いただきたく存じます。

・感染症と差別

私たち浄土真宗はこの国最大の宗教団体として、広く地域に根差してきました。その歴史の中では被差別部落やアイヌ、ハンセン病をはじめとしたさまざまな差別問題に対して、「差別する側」となってきた事実があります。その深い反省に立ち、差別に関しては特に宗派の課題として学びの場を設けています。

今回の新型コロナでも、感染者やその周りの方々への差別が表出したように感じます。そしてこれは日本独特の風土も関係しているかもしれません。日本には歴史的にどのような風土があり、感染症を前にしてどのような差別が表出し、根底にどのような課題があるのか。

深く洞察しておられる先生にぜひともご教示いただきたく存じます。



いわた けんたろう

岩田 健太郎

(Kentaro Iwata, MD, PhD, MSc, FACP, FIDSA, CIC, CTH)

神戸大学大学院医学研究科 微生物感染症学講座 感染治療学分野 教授

神戸大学医学部附属病院 感染症内科 診療科長

神戸大学都市安全研究センター 感染症リスク・コミュニケーション研究分野 教授

1997年島根医科大学（現・島根大学）卒業。沖縄県立中部病院研修医、セントルークス・ルーズベルト病院（ニューヨーク市）内科研修医を経て、同市ベイスイスラエル・メディカルセンター感染症フェローとなる。

2003年に中国へ渡り北京インターナショナル SOS クリニックで勤務。2004年に帰国、亀田総合病院（千葉県）で感染症科部長、同総合診療・感染症科部長歴任。2008年より現職。

米国内科専門医、感染症専門医、感染管理認定 CIC、渡航医学認定 CTH などに加え、漢方内科専門医、ワインエキスパート・エクセレンスやファイナンシャル・プランナーなどの資格ももつ。

主な著書に、『サルバルサン戦記』『抗菌薬の考え方、使い方 Ver.4』、翻訳本で『シュロスバーグの臨床感染症学（監訳）』、近刊に『新型コロナウイルスの真実』『感染症は実在しない』『ぼくが見つけたいじめを克服する方法』『新型コロナウイルスとの戦い方はサッカーが教えてくれる』など、著書多数。

今、日本で、何が変わり、

何が表出し、

何が求められ、

そしてお寺はコロナの中で何を

●参加申し込み方法

大谷会館で参加される方

【先着 50 名限定・参加費 500 円】

電話、または FAX にて、お名前（寺院名）・連絡先・参加人数をお知らせの上お申し込みください。

[申し込み先] 九州教務所久留米教務支所 TEL : 0942-32-3056/FAX : 0942-39-5077

オンラインで視聴される方

現在、視聴システムの構築中です。

10月15日以降、九州教区ホームページ内の案内に従って、視聴ページを取得ください。

[九州教務所ホームページ] otaniha-kyushu.com

